

「広告企画」
これからの市場を拓く **新製品**・**新工法**

▶ Atos

「IoT・ICT」「人材」「教育」で 中小建設業の変革を目指す

中小の土木施工会社に建設DXを浸透させ、建設業界を変革する——。その実現に向け、「IoT・ICT」「人材」「教育」をつなぐ取り組みを進めるのがAtosだ。本格稼働させた3事業の狙いと特徴を聞いた。

CSPI-EXPO 2024に
出展予定 **ブース No.09-61**

土木工事や測量を手掛けるAtos（埼玉県加須市）が、建設DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進する事業を矢継ぎ早に立ち上げている。

2023年5月に次世代建設マッチングソリューション「Atosコミュニティプレイス」を、2024年1月に建設プラットフォーム・コミュニティサイト「NexTly」をそれぞれ開設。2024年春には、ICT（情報通信技術）施工の教育と実証の場となる「AtosVillage」を福島県白河市で本格稼働させた。

Atosは、現場で手軽に使えるスモールDX製品の開発も行う。「自社で使い勝手を検証して現場に投入していく。リアルな現場中心サイクルが私たちの強み」と、渡邊直也代表は自認する。

新しく立ち上げた3つの事業は、土木施工を軸に「IoT（モノのインターネット）・ICT」「人材」「教育」を結びという同社の戦略を体現するものだ。中小の土木施工会社を主なターゲットに、これらの事業を通して現場の作業効率化と生産性向上を推し進める。

情報の地域格差をなくし 受発注をオンライン化

3つの事業のうち「NexTly」は、建

設DXに携わる人のコミュニティサイトだ。現場の作業員、建機メーカーの担当者、施工会社OBの技術者、ICT機器サービスの開発者などが無料で参加して情報交換する。

例えば、建設DXの製品に関する使い勝手やトラブルの解決例といった実践的な情報を、ユーザーに提供する。ユーザーの生の声は、開発者にとっても有益な情報になる。当初はAtosが



ユーザーのインタビュー動画などを積極的に投稿し、コミュニティの拡充を図る。参加者が増えれば、情報を発信したい人も集まってくると見込む。

「土木現場の情報は地域差が大きく、特に過疎化が進む地域では情報ソースが限られる。ネット上のコミュニティをつくることで、どの地域でも必要な情報が得られるようにしていきたい」と渡邊代表。コミュニティでの情報交換を通して、使いやすい新技術



Atos株式会社
代表取締役
渡邊 直也氏



Atos株式会社
企画部 部長
正木 康太氏

の開発や利用者への技術定着を促し、ひいては現場の生産性向上へとつなげていく考えだ。

「Atosコミュニティプレイス」は、無料で登録した会社や人材のマッチングと、3D測量や3Dモデル作成などの受発注をオンライン上で行う仕組みだ。3Dデータのやり取りも可能なので、所在地にかかわらず受発注できる。

発注者は、基準点や出来形の測量、点群データ処理や3D設計データ作成などのうち、自社でできない業務の依頼先を探す。受注者は所在地、年齢、性別、国籍などにかかわらず、業務の内容や期日に応じて自分に合った仕事を選ぶ。

「土木事業は繁忙期が重なり、人材の確保が難しい。オンライン上でアウトソーシングできれば、測量や設計の価格の透明化、繁忙期や閑散期の仕事の平準化、仕事や働き方の多様化にもつながる」と正木康太企画部部長は期待する。

広大なDX建設ヤードで 測量・工事を一貫体験

福島県白河市で整備が進む「AtosVillage」は、教育と実証のための画期的な場だ。Atosは2021年に面積45万㎡の山林を購入。以降、自社社員の手で造成工事を行いながらDX建設ヤードと研修棟、宿泊棟などを建設してきた。今後はワーケーション施設や農業のIoT実証施設なども用意して、広大なエコビレッジをつくり上げる予定だ。

3月に完成したDX建設ヤードでは、実際の工程を体験しながらICTの測量や建機の操作を学ぶ。建機などのメーカーが、新開発した製品を現場検証する場としても利用可能だ。

講習の一例としては、土木施工会社の社員が4日間合宿し、測量から盛り土・法面整備、出来形測量まで一連の工事を実施するコースを用意した。「若い社員は、現場での作業をイメージできずに辞めることが多い。出来上がっていく工程を一通り体験し、仕事の楽しさを感じてもらいたい。当社の社員がトレーナーを務めるので、私たちにとっては社員教育や雇用創出にもつながる」（渡邊代表）。

各地の会社が参加する講習は、既に始まっている。将来的には法人を立ち上げ、AtosVillageでの講習受講者を認定する仕組みをつくることも視野に入れる。認定資格をAtosコミュニティプレイスと紐づければ、受発注者やマッチングする際の信頼性が高まる。



2015年創業の若いAtosがこれらの取り組みを進める背景には、建設業の将来に対する危機感がある。建設業従事者の減少や高齢化に対応するため、国はICT施工の導入を推進している。ただし、大多数を占める中小の施工会社ではICTの普及が進まず、導入した会社でも活用できていないのが実情だ。

「ICT施工を進めるには、機材を買うだけでなく3Dデータの入手や作成を担う人が必要で、その教育が欠かせない。建設業界は情報量が圧倒的に

足りず、若者が魅力を感じない一因になっている」と渡邊代表は指摘する。

情報にアクセスできる場を設け、受発注者をつなぎ、人材を育てる事業には、こうした現状を打破する狙いがある。目指すのは、ICTを活用しながら、現場の知識が足りない若手技術者をベテラン技術者がサポートしていく関係の構築。そして、その先に「新しい建設業界の未来を創造することだ。今後、教育の資格化に向け日本建設ICT技術協会を設立し、さらなる教育事業の普及を目指す。

体験型のICT人材教育実習を実施

ICT技術者育成コース(4日間)	掘削・運搬・盛土・法面整形等リアルな工事の流れをICT機器を活用しながら体験。
●主な講習内容: 掘削・運搬・盛土/運搬のシミュレーション・管理/法面整形/進捗管理・出来形計測	
ICT実習基本コース(3日間)	掘削を中心に工事の流れを体験。
●主な講習内容: 3D測量体験/3次元設計データ作成体験/レトロフィット施工体験/遠隔現場・出来形検査体験	

研修の様子を動画で紹介



お問い合わせ先

Atos株式会社 ■本社: 〒349-1133 埼玉県加須市琴寄 115-2 TEL. 0480-53-7167
■大宮支社: 〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-10-16 シーノ大宮ノースウイング 16F TEL. 048-788-4210

<https://atos.co.jp/>